

ご寄付の お願い

本学では、教育・研究・診療のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。医学部開設から10年が経ち実習設備等の陳腐化が進み、更新が必要となっています。皆様からの温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄付の使途および今後の教育環境整備について



実績



看護学部*設置構想に向けて

賜りましたご寄付は、医学部生が地域医療機関で求められる総合的な診療力を身につけるための「シミュレーター」の整備や、薬学部生が病院や薬局で求められる実践的な知識・技能を習得するための「模擬薬局」の整備等に活用させていただきました。

2027年4月には看護学部の新設を予定しており、今後必要となる「実習設備や教育環境等の整備」を、着実に実現してまいります。皆様からのご支援をお願い申し上げます。

※仮称、設置構想中

ご寄付の方法

教育研究協力資金、附属病院支援協力資金

現金によるお振込みやクレジットカード決済によりご寄付を受け付けております。

●教育研究協力資金

インターネット(二次元コード)からのお申し込み、または同封の振込用紙にて、金融機関よりお振込みください。



教育研究
協力資金
(大学への寄付)

●附属病院支援協力資金

インターネット(二次元コード)よりお申し込みください。



附属病院
支援協力資金
(附属病院への寄付)

その他の寄付制度

左記のほか、ご不要となった書籍等

(CD・DVD・ゲームソフトを含む)を提供会社買い取りその買取金額をご寄付いただく「古本募金」、個人の遺言により所有財産の一部または全部をご寄付いただく「遺贈寄付」の各制度を取り扱っております。

詳細は、二次元コードよりご確認ください。



古本募金



遺贈寄付

税法上の 優遇措置

本学にご寄付いただくと、所得税が減税になります。また、個人住民税もお住まいの自治体により減税になる場合があります。詳細は、右記二次元コードよりご確認ください。



ON AIR

ラジオ×YouTube番組 教えて!東北医科薬科大学

健康について、お薬について、身体についてなど地域の皆さんからの疑問にお答えするほか、本学の教育内容や学生の声をお届けするラジオ×YouTube番組を放送中です。



詳しくは
こちら

放送局

放送日

Date fm 毎週金曜日 16:55~17:00(5分間)
(エフエム仙台) 生放送「AIR JAM Friday」内

インターネットラジオ(radiko)でもお聴きいただけます

読者アンケートのお願い

「東北医科薬科大学報 TMPU family」に関する皆さまのご意見・ご感想を募集しています。頂いたご意見は今後の誌面作りの参考にさせていただきます。なお、アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名さまに東北医科薬科大学オリジナルグッズをプレゼントいたします!

※プレゼント当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※画像はイメージです。

応募締切 令和8年2月末日

アンケートのご回答はこちら!▶▶



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
TEL:022(234)4181(代) FAX:022(234)1785
https://www.tohoku-mpu.ac.jp/



X



Facebook



YouTube



LINE

2026.01

vol.

46

TMPU family

東北医科薬科大学報

■特集

- 01 新年のご挨拶
- 03 看護学部設置構想について

■NEWS

- 05 大学&学生支援に関するお知らせ

■トピック&注目情報

- 07 医学部
- 09 薬学部
- 11 大学院、附属病院、同窓会、二松会
- 14 瞑想の森再生プロジェクト
- 15 受賞・部活動報告
- 17 学生広報スタッフによる特別企画
- 19 お知らせ

東北医科薬科大学
TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY



新年のご挨拶

「われら真理の扉をひらかむ」

新年 謹賀



新年を迎えるにあたって

理事長 高柳元明

新年あけましておめでとうございます。
学生の皆さん、そして保護者の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心より、お慶び申し上げます。
私は、一昨年度(2023年度)から、学長を退任し、理事長職に専念、法人全体を見守りながら、学生、教職員が快適に勉学、研究に専念できるように環境整備に努めております。
また、病院職員が患者様のために良質な医療を提供できるよう病院機能を整えることにも注力し、そして何よりも大学の教職員と病院職員間の融和を計り、大学・病院が一体となり一層充実発展していくよう法人の運営・経営を推進してまいりました。
学校法人を取り巻く社会環境に目を向けますと、2025年の出生数は、2024年に引き続き2年連続で年間70万人を割り込む見通しとの報道も出ており、人口減少(少子高齢化)のスピードがさらに増している状況で、大学にとっては死活問題として認識されております。
このような厳しい環境の中において、大学・病院経営改善は、一朝一夕でできるものではありません。中長

期計画等に基づく教職員の地道な努力の積み重ねによる経費削減や体制・仕組みの見直し・効率化等の実践が不可欠であり、構成員が一体感を持って困難な状況を乗り切ろうというマインドの醸成が極めて重要と考えております。
そのためには、法人として、ビジョンを明確に示し、具体的なメッセージとして伝えることで、教職員の意識・努力のベクトルを合わせて、1つの大きな力に変化させることが理事長の大きな責務であると肝に銘じ、日々業務にあたっております。
本法人・本学としても令和9年度からの看護学部新設に向けた準備を進めており、東北における医療系総合大学としての地位を確たるものにしてまいります。
本学の医学部・薬学部、そして大学病院は、引き続き、教育・研究・診療の三位一体の体制を活かし、実践的な学びと地域医療への貢献を両立させるとともに、これからの困難な道を皆さんと力を合わせ、健全な経営基盤を確保しつつ、東北地方の地域医療を、医療系人材の養成と医療の提供の両面から支えるという本法人の使命を果たすべく、引き続き邁進してまいります。



変化する社会に対応した人材育成を目指して

学長 大野勲

新年あけましておめでとうございます。
現在の学年も残り3ヶ月余りとなりました。学生の皆さんは、新年を迎え、また、学年のまとめに向かって、気持ちを新たにしていることと思います。
大学においては、昨年4月以降、学内外の状況を鑑みて、入学制度や施設、組織等において様々な対応を開始しております。宮城県に比較して、5県では依然として深刻な医師不足が続いていることから、医学部では、令和7年度から、宮城A枠30名を10名に減じ、20名を東北5県(青森・岩手・秋田・山形・福島)の枠として、新たに東北地域定着枠を設けました。薬剤師不足も東北地方では深刻であり、その解消に向けた新たな対策として、薬学部薬学科に、地域枠(宮城県、秋田県)を設定し、今年度その1期生を迎えました。薬学部の地域枠は、東北地方では初の試みです。また、急激に進む少子化による入学希望者の減少への対応として、令和8年度から薬学部薬学科の入学定員を300名から280名に減じます。薬学部生命薬科学科では、生命現象の新知見やその応用技術開発が目覚まし

い生命科学の分野に対応して、医学部、附属病院の教育資源を活用した教育や情報科学分野の教育を加えた新しいカリキュラムを検討中です。2つの附属病院(本院、若林病院)については、より効果的な教育・診療を提供する場として、富谷市での新病院(令和13年開院予定)を含めて、再編を検討中です。また、東北地方では看護師も不足していることから、医療人(医師・薬剤師)を養成する大学として、効果的なチーム医療教育を特徴とした看護学部の開設(令和9年度)を目指して準備中です。看護学部においても、修学資金枠を設定する予定です。
少子高齢化を伴う人口減少や人口偏在、また社会・経済活動の変化の中で、地域社会のニーズを踏まえながら、医学部、薬学部、附属病院が融合した教育・研究・医療により、引き続き、医療・生命科学の分野で活躍する人材の育成と安心・安全な医療の提供に努めてまいります。



2026

TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

目時教授が看護学部をナビゲート

東北医科薬科大学 看護学部設置構想

2027年4月 看護学部看護学科が誕生！※

＼わたしが紹介します！／

看護学部設置準備委員長
医師・医学博士 目時弘仁

青森県出身。東北大学医学部卒業後、内科・循環器科の医師として研鑽を積む。博士課程修了後、遺伝病や社会疫学の研究に従事。2016年より本学医学部の教授を務める。

Metoki Hirohito

※仮称、設置構想中

1

地域医療の中心的役割を担う 看護師を育成

医療現場では、医師、薬剤師、看護師らが連携して患者さんと向き合います。本学は創立以来、医療系総合大学として数多くの人材を地域社会に輩出してきましたが、医学・薬学教育の実績のもと、看護職人材を育成し、地域医療に役立てていくのがこれからの使命と考え、看護学部看護学科設置となりました。4年間を通して、看護の専門性だけでなく、研究的な視野や社会とのつながりを意識した教育を行い、卒業後は、地域医療はもちろん、教育や研究など、多様な分野で活躍できる人材育成を見据えています。



2

医科薬科大学だからこそ、学べることがある

1年次に科学的思考力と倫理観を育てる教養科目を配置し、看護の土台を築きます。また、病院での見学や演習を通して、実際の医療現場に触れる機会も設けています。2年次以降は、成人・小児・母性・精神など、対象ごとの看護を専門的に学びながら実習で技術を身につけ、附属病院などの臨地実習に進みます。臨地実習では、患者さんとの関わり方やチーム医療の中での看護師の役割を体験し、実践力を養います。医学部・薬学部の学生と3学部合同で学ぶ授業も設けられており、医・薬からの視点を理解し、協働する力を養うことで、将来、医療チームの一員として活躍するための基盤を築きます。また、実習場所は隣接の附属病院がメインなので、実習での勉強をキャンパスに戻ってすぐに復習できるメリットもあります。こうした環境のもとで勉強できるのは、本学だからこそと言えます。

チームでの学びが叶う！



3

4年間の教育で、キャリアの視界が広がる

実習の場となる大学附属病院は、最先端の医療機器がそろっています。毎年、看護系大学や専門学校から300名以上の学生の実習を受け入れており、豊富な指導実績のもと、安心して学べる環境が整っています。患者さんを支える医療には、看護職だけでなく、医師や薬剤師など、さまざまな職種との連携が欠かせません。本学には医学部、薬学部があり、同じキャンパスで学ぶ学生たちと講義や実習、学生生活を通して交流します。医学生、薬学生と協力して学ぶことで、将来、医療チームの一員として必要なコミュニケーションの力を身につけます。大学ならではの4年間という教育で、深い教養と研究的な視点を身につけることができ、看護をけん引するリーダーとして活躍する道も開かれます。地域医療、高度な医療を支えるスペシャリストや教育・研究職へのチャレンジなど、卒業後のキャリア、その選択肢が広がっていくのも大きな魅力です。

取得できる資格

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格

保健師免許取得後に取得可能な資格

- 養護教諭二種免許状
- 第一種衛生管理者

さまざまな職にチャレンジ！



在
学
生
へ
の
メ
ッ
セ
ー
ジ

多職種連携の授業で

チーム医療の現場感覚を学べます

いよいよ本学に、看護学部看護学科が誕生します。大学で看護を学ぶことには、大きな意味があると考えています。看護師の専門性はどんどん高くなってきており、いわゆる、診療の補助ではなく、看護師自身が考えて、選択して、行動するという場合も増えています。そのためにも、単なる看護の技術を学ぶのではなく、心理学や教養などを大学で時間をかけて学んでほしいと思っています。在学生にとっても、本学に看護学部ができることで「医・薬・看護」の連携授業が実現し、医学、薬学という互いの専門性を生かし、尊重し合いながら勉強できるという環境が整うことになります。看護学部の学生と一緒に学べることは、現場感覚を知る上で大きな力になるでしょう。そしてそれは、他者への理解や自分自身の考え方、その新たな気づきにつながるのではないのでしょうか。

※看護学部(仮称)は設置構想中であり、計画内容が変更になる場合があります。



大好評の見学ツアーは 2026年も続々開催！

学びの環境や大学病院の雰囲気を知ることができる「附属病院見学ツアー」は、大好評の2025年に続いて今年も開催します。見学は在学生や病院の看護師たちが説明役となり、十数人のグループごとに行われ、大学の教育研究棟にある講義室や実験室の他、病棟ではICUの中まで見学できます。高校生や保護者など、宮城県を中心に岩手、山形、福島、千葉など、県外からの参加者も多く、心電図や血圧測定の見学体験、学食の無料試食、在学生たちに話を聞くコーナーも人気。見学ツアーで「看護師として働くイメージ」を自分のものに！



大学&学生支援に関するお知らせ

同窓会からの学生関連支援金について

同窓会からの学生支援として本年も、課外活動援助金を始めとした様々な支援をいただいております。その中の1つとして学生生活に対する支援金200万円の寄付をいただきました。毎年好評を博している学食での100円カレーの提供について学生委員会で提案を行い、小松島キャンパス・福室キャンパスの学食において学生の負担を100円とし、差額を同窓会からの支援金で賄うという形で実施されました。同窓会からは、毎年様々な形で頑張っている後輩学生に対して、支援を行っていただき感謝申し上げます次第です。



オープンキャンパス2025終了

今年度のオープンキャンパスは、6月・8月・10月の全3回で開催し、延べ2,000人を超える方々にご参加いただきました。各研究室の出張や在学生トークライブ、病院見学ツアーなど豊富な企画を実施し、参加者からは「学生のみなさんが明るく声をかけてくれて話しやすかった」「ますます受験へ向けて気を引き締められた」などの感想が寄せられました。



『東北医科薬科大学×東北工業大学 医薬工研究連携キックオフセミナー』を開催

11月22日、本学と東北工業大学が合同で「医薬工研究連携キックオフセミナー」を開催しました。冒頭、両学長からは医薬工連携がもたらす新しい価値への期待が語られ、8名の研究者による多彩な研究発表が行われました。交流会では全員が自己紹介を行い、分野を超えた交流が活発に進みました。共同研究の話で盛り上がり、早くも共同研究開始の可能性がみえてきました。産業界との連携にも期待が寄せられ、地域発のイノベーション創出に向けた第一歩となりました。



大学祭を開催

今年度の大学祭は「CheMystery(化学〈Chemistry〉と謎〈Mystery〉を組み合わせた造語)」をテーマに、10月12日及び13日の2日間にわたり開催されました。課外活動団体や学生有志団体によるステージパフォーマンスや企画展示、地域との連携ブース、近隣飲食店のご協力による屋台村など、多彩な企画でにぎわいました。また、スペシャルゲストとして「なかやまきんに君」をお招きし、特別イベントも実施され、約1,000名が来場し盛況のうちに終了しました。ご協力・ご来場いただいた皆様に感謝申し上げます。



令和7年度在学生保護者教育懇談会

在学生保護者教育懇談会は、本学の教育現況や方針等について、在学生の保護者の皆様の理解を深めていただくことを目的として、例年秋に開催しております。本年度は、10月4日に薬学部は小松島キャンパス、医学部は福室キャンパスにて実施し、薬学部には231名、医学部には162名の保護者の方々にご参加いただきました。また、当日ご参加いただけなかった保護者の皆様にも情報を共有できるよう、全体会での説明内容を録画した動画を10月10日から10月31日までの期間、本学ホームページにて公開いたしました。多くの方にお越しいただき、心より感謝申し上げます。



みやぎ県民大学『キッズサイエンススクールat東北医科薬科大学』を開催

宮城県教育委員会の主催するみやぎ県民大学に参画して小学3年生～6年生を対象にした実験講座を実施しました。8月2日、3日の2日間、合計9.5時間にもわたるプログラムの中で遺伝子を増やす実験や生薬成分の抽出・精製・結晶化などに挑戦しました。参加者からは「子供が集中して取り組んでいて驚いた」「とても興味を持ったようで将来を考える上で参考になった」などの感想が寄せられました。



塩竈市との合同イベント『キッズサイエンススクールin塩竈』を開催

本学と塩竈市との包括連携協定に基づき、9月27日に塩竈市民館を会場として『キッズサイエンススクールin塩竈』を開催しました。塩竈市内の小学4年生～6年生を対象に『生活の中のアミノ酸・ペプチドを見つけてみよう!』『薬剤師さんのお仕事を体験しよう!』をテーマとした講座を実施し、20組の方々にご参加いただきました。



高大連携事業に係る公開講座開講

高大連携事業に係る公開講座は、高校生が大学における高度な教育・研究に触れることにより、学問に対する興味・関心を持ち自ら学ぶ意欲を高めその能力の伸長を図るとともに、主体的な進路選択を行うことができるよう、宮城県教育委員会と在仙大学との協定により平成16年度から実施しています。今年度は8月16日に開催し、高校1年から3年までの55名の生徒が初めて学ぶ分野にも熱心にメモを取りながら医学部・薬学部それぞれの講座を受講していました。

仙台市立高砂小学校の2年生が福室キャンパスに来校!!

10月17日に福室キャンパスにて、仙台市立高砂小学校の2年生を対象とした生涯学習講座(生活科「町たんけん」施設見学)を実施しました。75名の児童が5つの講座から希望の講座を受講し、医療にかかわる様々な体験を通じて命や健康について学びました。大学や病院で実際に使用している機器に触れた児童からは「自分の心臓の音初めて聞いた!」「今度からしっかり手を洗おう!」「薬を作るって楽しい!」など嬉しいコメントを沢山いただきました。児童の皆さんにとって「自分の夢の一つとして何かを感じ取るきっかけ」になったのではないかと感じています。



今年度の講座内容

「分析化学」
薬学部・臨床分析化学教室 准教授 佐藤勝彦

「難病とは」
医学部・脳神経内科学教室 教授 中島一郎

「感染症の感染拡大の数理」
薬学部・教学IR室 教授 渡部輝明

「高校生のための眼科学」
医学部・眼科学 教授 高橋秀肇



令和7年度卒業式のお知らせ

令和7年度学部卒業証書・学位記授与式並びに
大学院学位記授与式を、令和8年3月6日(金)午前10時より、
仙台銀行ホール イズミティ21(仙台市泉文化創造センター)
において挙行いたします。

■ 地域臨床実習体験記(医学部医学科6年 崎本有梨亜)

私は福島県のいわき市医療センターで6週間の実習をさせていただきました。本学の大学病院にはないNICUや小児外科での実習は大変貴重な経験であり、周産期医療を支える現場を間近で学ぶことができました。どの科においても積極的に手技を経験させていただき、熱心なご指導のもと、多くの知識と技術を身につけることができました。先生方をはじめ病院の皆さんがとても親切で、いわきの温かさと地域医療の魅力を実感した実習でした。

■ 白衣授与式

10月10日に福室キャンパスプラタナスホールにて、4年次後期から始まる「診療科臨床実習」を前に、4年生111名の白衣授与式を挙行了しました。大野勲学長、柴田近医学部長、佐藤賢一統括病院長からの激励の挨拶に続き、教員から学生一人ひとりに白衣を授与しました。学生を代表し、坪井美恵子さんが「社会から信頼される最高の医師となれるよう、全力を尽くすことを誓います。」と宣誓し、式典を締めくくりました。



■ 東北大学・東北医科薬科大学 慰霊祭・遺骨返還式

12月4日に東北大学百周年記念会館 川内萩ホールにおいて、令和7年度東北大学・東北医科薬科大学 合同慰霊祭・遺骨返還式が開催されました。ご遺族、来賓、白菊会役員、教職員、解剖学実習を終えた学生が出席し、厳かな雰囲気の中、両式典は執り行われました。午前の慰霊祭では、本学から柴田近医学部長、上条桂樹教授(解剖学教室)、学生代表として石田優希さんが献花を行い、御霊の安らかならんことをお祈りいたしました。午後の遺骨返還式では、学生実行委員の香川陽彦さん、加藤智史さん、原田和佳さんを中心に、学生が主体となり運営を行い、今年度は、本学の平賀帆一さんと水本薫子さんの司会進行のもと、各学部長からご遺族にご遺骨の返還が行われました。本学学生代表・櫻川メイベルさんからは、医学・医療の発展のためにお身体を捧げてくださった故人と、そのご遺志を尊重されたご遺族の方々に対し敬意を表し、感謝の言葉が述べられ、その後は、本学学生を代表し大町雄一朗さんが献花を行いました。運営を担当した学生の尽力もあり、式典はつつがなく進行し幕を閉じました。



■ 臨床実習後OSCE

11月1日に臨床実習後OSCEを医学部6年次生96名に対し実施しました。臨床実習後OSCEは医学生が診療参加型臨床実習により、医学部の卒業を許容できるレベルの臨床能力を修得していることを確認するための客観的臨床能力試験です。試験内容としては患者さんの話から病態を推測し、話の中で得た情報を鑑別診断につなげるために身体診察を行い、その後指導医に報告を行います。この試験では思考過程を過不足なく指導医に報告できるかどうかを評価され、患者さんからの情報を得るために限られた時間で診察の内容に優先順位をつけて効率よく行うことが求められます。

■ 医師国家試験に向けて

第120回医師国家試験は2026年2月7日(土)・8日(日)に実施されます。合格者の発表は、3月16日(月)に厚労省のホームページ上で行われる予定です。6年次後期は各専門領域の教員が6年間の学修内容を総括する「統括講義」を担当しています。この講義は本学学生が苦手とする分野を幅広くカバーしており国家試験対策としても極めて有効です。補講や模擬試験と併せて、学生が万全の準備を整えられるよう取り組みを進めています。

■ 研究・症例セミナー(第19回医薬研究交流会) 医学部優秀セミナー賞受賞者決定

6月19日・20日に開催された「研究・症例セミナー(第19回医薬研究交流会)」では、准教授以下の先生方から演題を募り、2日間にわたり計20演題の発表が行われました。厳正なる審査の結果、医学部から3名、薬学部から1名の研究者が優秀セミナー賞に選出され、表彰式が執り行われました。表彰式では「受賞された皆さんの発表は非常にレベルが高く、研究に対する真摯な姿勢と熱意が強く感じられました。今後のさらなる発展が大いに期待されます。受賞された皆さん、誠におめでとうございます」と、研究推進委員会委員長 高橋伸一郎教授からお話がありました。

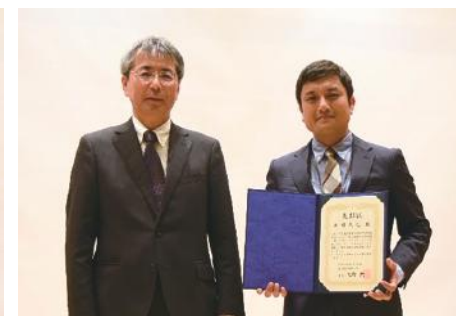
受賞者と所属 / 医学部



伊藤大樹 助教
所属:内科学第三(腎臓・高血圧内科)教室



高井淳 講師
所属:医化学教室



北村大志 講師
所属:微生物学教室



薬学部後期オリエンテーションの開催

9月22日に薬学科1～4年生および生命薬科学科1～3年生を対象に薬学部後期オリエンテーションが実施されました。オリエンテーションでは、組担任から前期の学業成績表が配布され、前期の振り返りを行うとともに、後期に向けた目標を立て、自分自身の学びや行動を見直す機会となりました。また、学生生活に関する支援として学生相談室の案内が行われ、薬物乱用やSNSトラブル、不適切なアルバイト、マルチ商法に対する注意喚起も行いました。学生の皆さんが充実した大学生活を送れるよう、教職員一同で今後も支援してまいります。



薬剤師国家試験対策

令和8年2月21日(土)、22日(日)の両日第111回薬剤師国家試験が実施されます。問題数は「必須問題」が90問、「一般問題(薬学理論問題)」が105問、「一般問題(薬学実践問題)」が150問、計345問です。

合格基準

以下のすべてを満たすことを合格基準とすること。

なお、禁忌肢の選択状況を加味する。

- ①問題の難易を補正して得た総得点について、平均点と標準偏差を用いた相対基準により設定した得点以上であること。
- ②必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の30%以上であること。

第111回薬剤師国家試験の合格発表は令和8年3月25日(水)です。厚生労働省ホームページの資格・試験情報のページに受験地及び受験番号が掲載されます。今年度の薬剤師国家試験対策として、薬学科6年生を対象に10月14日から11月18日まで外部講師による特別補講Ⅰを実施し、2月上旬には卒業予定者を対象に特別補講Ⅱ(任意・講習料は有料)を実施する予定です。

薬学科5年次実務実習成果報告会

薬学科では、5年次に薬局と病院でそれぞれ11週間ずつの実務実習をA～Cの3グループに分けて実施しています。また実務実習を終えた学生については実務実習成果報告会をポスター形式で開催しております。今年度の成果報告会は小松島キャンパス教育研究棟にて、第1回目(Aグループ)を9月6日、第2回目(Bグループ)を11月8日に開催しました。宮城県内外のご施設より指導薬剤師の先生にもお越しいただき、学生同士で学んだことを伝え合うと共に、聴衆への発表を通じて、活発で実りある成果報告の場となりました。第3回目(Cグループ)は令和8年2月14日(土)に開催する予定です。



薬学科6年次卒業研究発表会

薬学科6年生239名による、卒業研究発表会が去る7月22日、23日に本学教育研究棟(ウェリタス)アトリウムにて行われました。卒業研究は5、6年次での2年間の研究成果をまとめたもので、発表は一人1枚のパネルを使いポスター形式で行われます。当日の発表の際には多くの教員、学生が集まり、活発な質疑応答が行われました。学生は、本発表会において出た意見、質問等を踏まえて論文を完成させ、8月末までに提出しました。



マイナビキャリアサポートに掲載

マイナビキャリアサポートのホームページに、本学のキャリア・就職支援の取り組みについて紹介されていますので、ぜひご覧ください。

マイナビ
キャリアサポート



研究・症例セミナー(第19回医薬研究交流会) 薬学部優秀セミナー賞受賞者決定

6月19日・20日に開催された「研究・症例セミナー(第19回医薬研究交流会)」では、准教授以下の先生方から演題を募り、2日間にわたり計20演題の発表が行われました。厳正なる審査の結果、医学部から3名、薬学部から1名の研究者が優秀セミナー賞に選出され、表彰式が執り行われました。表彰式では「今回のセミナーでは、受賞者以外の発表者の皆さんも大変素晴らしい内容を披露され、活発な意見交換が行われました。今後も本学における研究活動のさらなる活性化が期待されます。」と、研究推進委員会副委員長 顧建国教授からお話がありました。

令和7年度インターンシップ報告

生命薬科学科3年次の前期授業として、25名の学生が夏季休暇中にインターンシップに参加しました。製薬会社や食品会社、公務員など14事業所のご協力を得て、実際に業界や仕事を知る体験をし、将来のキャリアを考える良い機会になりました。

インターンシップ 体験記

薬学部生命薬科学科3年 大河原菜香

私は将来営業職の仕事に就きたいと思い、株式会社バイタルネットのインターンシップに参加しました。インターンシップでは、MSの仕事について、MRとの打ち合わせや資料作成、病院訪問など、多岐にわたる業務を担っていることを学びました。また、多様な価値観を持つ方々とより良いコミュニケーションを図るためには、まず相手を知ろうとする姿勢、相手に合わせた話題選び、日頃からのメール等のやりとりが大切であることを教えていただきました。こうした積み重ねが医療現場との信頼関係を築いているのだと実感しました。5日間を通して、MSは薬の幅広い知識や医療制度への理解、会話力が求められることを学ぶことができました。今後は日々の勉強とともに、様々な人と関わる中でコミュニケーション力を磨いていきたいと思います。

受賞者と所属 / 薬学部



福田友彦 准教授
所属:細胞制御学教室



株式会社バイタルネット 様



浦霞醸造元 株式会社佐浦 様



浜理PFST株式会社 米沢工場 様

令和7年度 就職(進学)状況について

就職・採用活動については、例年どおり、広報活動(就職情報サイトのオープン、会社説明会等)の開始時期は3月となっております。本学では、薬学科6年生240名、生命薬科学科4年生27名、大学院博士課程前期(薬科学専攻)2年生6名、大学院博士課程後期(薬科学専攻)3年生2名、博士課程(薬学専攻)4年生の1名の計276名が、就職あるいは大学院進学を目指し活動を行っております。12月に入り、就職活動は終盤となりましたが、12月19日現在の各学科の進路状況は例年並みの内定率となっております。

薬学科

製薬会社3名、医療機器1名、医薬品卸業1名、公務員6名、病院58名、薬局114名、ドラッグストア34名、その他企業1名、大学院進学5名の計223名が進路を決定しており、進路決定率は92.9%(昨年同数)となっております。病院内定者は、24.2%と前年同時期(28.1%)より若干減少しており、薬局内定者は、61.7%と前年同時期(59.6%)より増加しております。

生命薬科学科

製薬会社(MR職)4名、試験研究機関1名、CRO・SMO2名、他業種1名の計8名が就職内定しております。また、14名が大学院進学(本学大学院13名)を決定しております。

大学院

薬科学専攻博士課程前期課程は製薬会社1名、化学工業1名、薬学専攻博士課程については、製薬会社に1名就職内定しております。

なお、進路未決定の学生の皆さんに対して、引き続き支援を行っておりますので学務部キャリア支援課を積極的にご利用ください。



大学院より

薬学研究科

大学院薬学研究科入試結果

薬科学専攻博士課程前期課程

	募集人員	志願者	合格者	入学手続完了者
推薦入学試験	3	8	8	8
一般入学試験(一次募集)	3	7	7	6
合 計	6	15	15	14

薬学専攻博士課程

	募集人員	志願者	合格者	入学手続完了者
一般入学試験(一次募集)	3	8	8	8
合 計	3	8	8	8

医学研究科

大学院医学研究科では、通常の入試説明会とは別に、オンラインで「大学院医学研究科交流会」を実施しています。この「交流会」においては、毎回2名の大学院学生に講師をお願いし、自身の大学院生活についてプレゼンテーションしてもらいます。在籍生の本音が聴けて、直接質問もできる貴重な機会となっています。2025年は8月と12月の2回開催しました。今後も随時開催しますので、大学HP、SNSを確認の上、興味のある方はご参加いただければと思います。



附属病院より

【本院】私立医科大学病院 医療安全・感染管理相互ラウンドを受審

10月14日、日本私立医科大学協会(私大協)の相互ラウンドのため、金沢医科大学病院の方々が本院を来訪されました。本ラウンドは私大協加盟大学の附属病院間において第三者の視点から検証を実施し、それぞれの病院の医療安全・感染対策の強化・改善につなげることを目的として行われています。当日はヒアリングや意見交換、院内のラウンドが行われた後、講評をいただきました。この機会を活かし、引き続き医療安全・感染対策の強化・改善を進めてまいります。



【本院】透析室を増床

本院の透析室は治療ベッド7床で運用しておりましたが、透析が必要な患者さんの増加に対応するため、10月20日より20床に増床しました。オープンフロア16床、重症管理および感染管理フロア3床、陰圧管理が可能な空気感染管理フロア1床となり、幅広いニーズに対応できる体制が整っています。透析装置も最新タイプに更新し増台されました。新しい環境の下、今後も安全・安心な透析医療を提供できるよう努めてまいります。



【若林病院】世界糖尿病デーイベント実施

11月12日、若林病院糖尿病チームは院内で「測って話そう!健康サポートフェア」を開催しました。本イベントは、11月14日の「世界糖尿病デー」に合わせ、糖尿病の予防や治療継続の大切さを広く知っていただくことを目的に毎年実施しています。当日は血糖測定や筋肉量測定に加え、管理栄養士・薬剤師など多職種による個別相談を行い、参加者の疑問や不安に丁寧に対応しました。参加者からは「不安が解消できた」「とても参考になった」などの声が寄せられ、健康づくりの一助となった様子が伺えました。今年は40名以上が来場され、和やかな雰囲気の中で大いに盛り上がりました。



【若林病院】連携の会を開催

11月21日、ホテルメトロポリタン仙台にて、「東北医科薬科大学 若林病院連携の会」を開催いたしました。本会は、病院・クリニックの先生および福祉・在宅関係機関の方々をお招きし、診療科紹介を兼ねた講演や情報交換を行うもので、院内外より合計247名にご参加いただきました。第一部 講演会では、消化器内科 高須充子医師より「消化器内科の紹介」、糖尿病代謝・内分泌内科 中村はな医師より「甲状腺眼症の新規治療」の講演を行い、最後に副病院長 東海林史医師からは、「若林病院最新の診療状況」について紹介いたしました。第二部 情報交換会では、医師が病院キャラクター入りの法被を着用してお出迎えし、大変ご好評をいただきました。日頃電話や書類でのやりとりが主ですが、参加された方々と直接お話できる貴重な時間となりました。当院に対するたくさんのご意見・激励のお言葉を頂戴することができました。今後も顔の見える連携を大切にし、より一層地域に根ざした病院となれるよう職員一同努めてまいります。



同窓会より

第8回東北医科薬科大学小松島ホームカミングデイ及び福室キャンパスツアーと第1回福室ホームカミングデイ開催

同窓会主催の第8回ホームカミングデイが10月12日11時より母校にて開催されました。当日は、同窓生や旧教職員、在校生等99名の参加がありました。第一部の講演会では一條宏同窓会長の挨拶があり、続いて大野勲学長、佐藤賢一統括病院長の挨拶があり、柴田近医学部長と村井ユリ子薬学部長の講演があり、参加者一同、本学の現状や医薬連携などについて熱心に聴いておられました。第二部の昼食会は会場をカフェテリアに移して一條宏同窓会長の挨拶及び乾杯で会が始まりました。本学アンサンブル部と合唱団による音楽会が開催され、素晴らしい演奏と歌声に会場全体が酔いしれました。昼食会では、同窓生、教職員OB、教職員(医学部を含む)、参加者のご家族も含め、本学に関わる皆様が学生時代の思い出や母校の発展ぶりに話を咲かせ、和やかな雰囲気のもと交流を深めて午後1時に閉会しました。その後、希望者38名が福室キャンパスツアーと福室ホームカミングデイへ出発しました。福室キャンパスでは大野勲学長、附属病院薬剤部長の岡田浩司教授、解剖学教室の尾形雅君准教授より、医学部及び附属病院の概要等について説明があり、その後医学部教育研究棟、附属病院薬剤部や新病院棟の見学をしていただきました。その後福室キャンパスプラタナスホールを会場に第1回福室ホームカミングデイが開催されました。一條宏同窓会長の挨拶に始まり、続いて佐藤賢一統括病院長の挨拶、大野勲学長の講演会がありました。その後夕食会を食堂へ会場を移し行われました。医学部開設10周年の記念の年を祝い、鏡割りが行われ、福田寛元医学部長の乾杯のご発声のもと会が始まりました。医学部の先生方と薬学部の同窓生、医学部の同窓生や学生で和やかな雰囲気のもと歓談され、交流を深めました。参加者の皆様からは、初めて見る医学部の教育・研究の施設環境や薬剤ステーションなど、先進的な医療の提供が可能で新病院棟を見学する機会を得て大変興味深かった。また、薬学部生の解剖実習の授業の様子など、医学部と薬学部の連携や母校の充実・発展ぶりをつぶさに見る機会を得て、大変有意義な見学会であったとの感想が寄せられました。



二松会より

二松会総会の開催(書面表決)

令和7年度二松会総会(書面開催)における、各議題の決議結果について、以下のとおりご報告いたします。

※なお、下記の結果につきましては、9月30日付にて大学ホームページにも掲出しております。

- 1.日程:(書類発送)8月8日、(回答締切)8月31日
- 2.書類発送数:2,476通
- 3.回答数:841通(回答率・33.97%)
- 4.各議案に対する回答:右図
- 5.決議結果

第1号から第5号までの議案について、過半数の賛成により可決されました。
※二松会会則 第九条に準じ、いただいた回答の過半数の賛成をもって可決とさせていただきます。

6.いただいたご意見について

会員の皆様より、二松会の運営および大学に対する励ましのお言葉を頂戴するとともに、ご指摘等に関するご意見も複数いただきました。皆様からいただいたご意見につきましては、大学とも共有の上、本会議運営に役立たせたいと考えております。引き続き、ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

	議案	賛成	反対	無効票 (未選択)	賛成率
第1号議案	令和6年度収支決算について	833	0	8	99.0%
第2号議案	令和7年度事業計画について	832	1	8	98.9%
第3号議案	令和7年度予算について	831	2	8	98.8%
第4号議案	役員の改選について	832	1	8	98.9%
第5号議案	東北医科薬科大学 二松会会則の改正について	832	1	8	98.9%

クラウドファンディング

瞑想の森再生プロジェクト

東北医科薬科大学の小松島キャンパスを囲む
瞑想の森がナラ枯れの影響で失われつつあります
緑豊かなキャンパスを未来に残すため
ご支援をお願いいたします

寄付受付期間
2026年
2月～4月

長く親しまれる「瞑想の森」

小 松島キャンパスのシンボル『瞑想の松』は、樹齢600年を超える古木であり、明治時代の文芸評論家・高山樗牛が学生時代にこの松の下で瞑想したことにちなんで名付けられました。また、周辺の森は『瞑想の森』と名付けられており、仙台市の「社の都の環境をつくる条例」に基づき保存緑地に指定されています。



※瞑想の森4.18haの内、本学所有分は1.3h ※Googleマップより作成

ナラ枯れ被害の発生について

本 学では2014年頃から著しいナラ枯れ被害が発生しており、被害の拡大を防ぐため、現在までに200本を超える被害木がやむを得ず伐採されました。『ナラ枯れ』とは、カシノナガキクイムシという甲虫が媒介するナラ菌によって、ミズナラやコナラなどのブナ科樹木が枯死する伝染病です。木の中で成長・羽化した新成虫が健康な木に飛来することで被害が拡大します。瞑想の森は、仙台市の保存緑地に指定されており、保全費用として年間約48万円が給付されていますが、枯木・倒木の伐採にかかる支出は交付金収入を大きく上回っており、森の遊歩道を利用する学生や市民の安全を確保するための最低限の対応に留まっている現状にあります。



失った景観と自然環境を再生するための植樹活動

市街地にありながら豊かな緑が残る瞑想の森は本学のみならず地域住民にも親しまれる場所です。失った緑を植樹によって再生することを目指します。

学生や地域住民が安全に過ごせる憩いの場に

多くの被害木を伐採した影響は周囲の健康な樹木にも広がり、風害によって更なる枯木・倒木の被害が増加しています。瞑想の森に立ち寄るすべての方が安全に過ごせる環境づくりを目指します。



学生、教職員、地域住民の交流を深めるきっかけとして

このプロジェクトは一度きりで終わるものではありません。学生、教職員、地域住民が継続的な緑地保全活動に取り組むことで交流を深め、より良い街づくりのためにさらなる発展を期待するものです。

FAQ

Q1 いつから寄付できる?

受付期間は、2026年2月～4月頃を予定しています。事前に特設サイトからメールアドレスをご登録いただくと定期的に最新情報を受け取ることができます！

Q2 寄付の方法は?

クラウドファンディングサイト「READYFOR」に本学専用の応募フォームを開設します。

Q3 寄付のリターンは?

寄付の返礼品や目標金額については現在検討中です。特設サイトで随時発信いたしますのでぜひご確認ください！

詳しくはこちらをcheck!
みなさまの温かいご支援をお願いいたします

<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/university/info-university/122845/>



Frequently Asked Questions

TMPU Edward 受賞&部活動報告

学内外で活躍する学生・教員を紹介します

※学年・所属は受賞当時

試験・学会関連

部活動関連



医学部6年の浦尾樹正さんが
第23回世界災害救急医学会で
Best Student Poster Award を受賞



2025年度
初級バイオ技術者認定試験
合格率100%を達成！



薬学部臨床感染症学教室
佐藤匠助教がMRSAフォーラム2025で
優秀演題賞を受賞



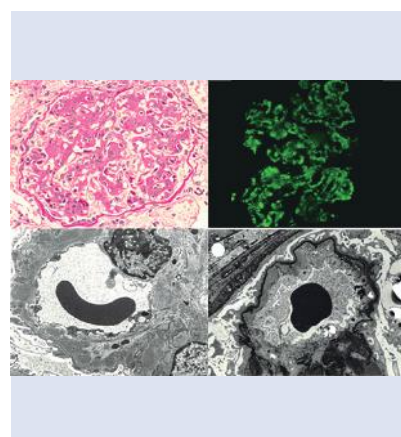
水泳部が
第60回北日本医科学生水泳大会で
総合3位



水泳部が
第68回東日本医科学生総合体育大会で
女子総合5位、個人・リレーの7種目で入賞



卓球部が
第66回全日本薬学生卓球大会で
入賞



医学部病理学教室
病理診断学教室教員の共著論文が
日本臨床分子形態学会の論文賞を受賞



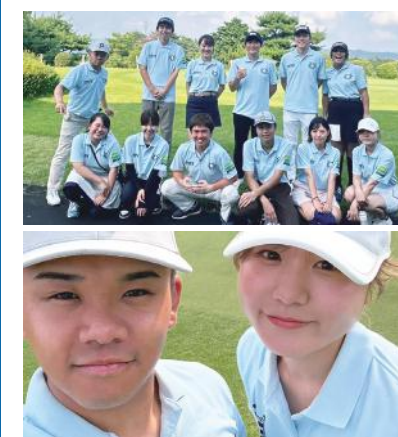
医学部内科学第三(腎臓・高血圧内科)教室の
伊藤大樹助教が
AHA Hypertension 2025 Scientific Sessionsで
New Investigator Awards for Japanese Fellowsを
受賞



医学部内科学第三(腎臓・高血圧内科)教室および
衛生学・公衆衛生学教室の3名が
第47回日本高血圧学会総会で学会賞を受賞



卓球部が
第68回東日本医科学生総合体育大会・卓球競技で
入賞



医学部3年の堤優志さんが
東日本医科学生総合体育大会ゴルフ競技で
15位入賞



卓球部が
第59回全日本医科学生総合体育大会
王座決定戦卓球部門の女子団体が準優勝



医学部泌尿器科学教室 諸角謙人准教授が
日本泌尿器腫瘍学会第11回学術集会で
学術集会奨励賞を受賞



卓球部が
第94回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)
予選大会で第3位



卓球部が
第60回東北地区医科学生卓球大会で
準優勝



ゴルフ部の堤優志さんが
全日本医科学生総合体育大会ゴルフ競技で
入賞



準硬式野球部が
令和7年度東北地区大学
準硬式野球秋季リーグ戦(2部)で準優勝



ゴルフ部の
小川恭平・野崎亜梨那ペア、堤優志・迫田大凜ペアが
東北地方医科学生総合体育大会ゴルフ競技入賞
堤優志さんはドラゴン賞も獲得

学生特別企画 Special Interview

学生広報スタッフ『tmPR』が

教員陣にインタビュー！

医学部で履修する

衛生学・公衆衛生学・疫学体験学習 では

学生が教室を飛び出し、

地域社会や現場でその知識が

どう活かされているかを

肌で感じるための実習が含まれています。

今回は授業を担当する

医学部衛生学・公衆衛生学教室の

佐藤倫広講師・村上任尚助教 のおふたりが

その内容や目的を語ってくださいました！

Profile



佐藤 倫広 講師

村上 任尚 助教

本学薬学部卒業後、東北大学大学院薬学研究科で疫学研究を学び、博士(医療薬学)を取得。日本学術振興会特別研究員PDを経て、2016年より東北医科薬科大学医学部に着任。宮城県気仙沼市出身。帰省時には趣味の釣りを楽しんでいる。

東北大学歯学部卒、同大学院歯学研究科修了。博士(歯学)。歯科医師・補綴歯科専門医として高齢者の健康維持にも取り組む。2016年より東北医科薬科大学医学部に着任。盛岡出身・仙台育ち、仙台第一高等学校卒。車好き。趣味は旅行とドライブ。

01 実習の概要について教えてください。

この実習は、医学部2年後期に開講されている実習です。実習内容は主に4つに分かれています。1つ目は民間の工場・施設を見学して産業衛生について学ぶ実習、2つ目は宮城県や仙台市の協力のもと衛生行政に関する施設を見学する実習、3つ目は大学内で疫学に関する論文を基にディスカッションを行う実習、4つ目はパソコンを用いた疫学の統計演習です。産業衛生の実習では、窓やドアをはじめとする建築用工業製品を扱うYKK APやJR東日本などの工場を訪れます。JR東日本の施設では、新幹線の塗装を塗り直す工程を見学し、塗装をはがす際に発生する粉塵を作業者が吸い込まないようにする工夫や、作業時のケガを防ぐための安全対策などについて学びます。衛生行政に関する実習では、食品監視センターや市場などの施設を訪れて、食中毒の原因となり得る食材が流通していないか調査する様子を見学します。また、食材から添加物を抽出する実習や、健康な動物と病気の動物の内臓に実際に触れて比較する体験など、実践的な学習も行います。



03 具体的にはどのような場面で役立つのでしょうか？

公衆衛生学は、人々の健康を守るうえで大きな役割を果たしています。中でも職場における健康管理は重要な領域の一つです。産業医は、作業環境の衛生面や安全性を評価し、将来起こりうるケガや病気を未然に防ぐことで、労働者の健康を守っています。こうした予防的アプローチは、工場や原子力発電所など、事故のリスクが潜む職場で特に重要です。

04 学びを深めるために、先生方が実習中に工夫されていることは何ですか。

実習中、学生は新幹線や大型機械など珍しい設備に目を向けがちです。そのため、産業医がどのように働いているのかなど、衛生学が実践されている現場に目を向けるように指導しています。また、学生が着用したヘルメットに障害物が触れそうな際や、工場内で移動中のロボットとすれ違う際には注意喚起を行っています。さらに、事前に実習先の職員に実習の概要について打ち合わせをすることにより、当日スムーズに学びが進むように準備しています。

02 医療を提供するうえで、衛生学・公衆衛生学を含む社会医学はどのように重要なのでしょうか？

医師というと、多くの方は「目の前の患者さんを診察・治療すること」が主な仕事であると考えられると思います。しかし、実際にはそれだけが医師の役割ではありません。疫学的手法や理論を用い、個人および社会全体の健康を守ることにも医師に与えられた大きな使命の一つです。例えば、ある病気にかかる人が特定の地域で多く見られる場合、目の前の患者さんへの治療だけでは患者数の増加を止めることはできません。そこで、衛生学・公衆衛生学などの社会医学的アプローチの活用が重要になってきます。この考えを実践することで、個人に対する再発予防や生活習慣改善の支援にとどまらず、まだ病気にかかっていない集団内の発症予防にも取り組むことができます。さらに、臨床現場において治療方針の基盤となるエビデンス(科学的根拠)も疫学研究をもとに構築されており、現代医療で重要視されているEBM(Evidence based medicine: 根拠に基づく医療)は社会医学の知見と深く結びついています。このように社会医学は基礎医学・臨床医学と並び、現代医療を支える重要な医学分野とされています。

05 実習を通じて学生に何を身につけて欲しいですか？

理論的なことは座学で十分に学んでいます。そのため実習では、実際に見て触れる経験を通して、現場を知ることが重視されています。医療には、ケガや病気を未然に防ぐ取り組みや、発症しにくい環境づくり、そしてケガをした人がどのように過ごせば早期復帰につながるかを研究する視点も含まれます。実習先の一つである食肉衛生検査所では、食用家畜が感染症などの病気に罹っていないかを確認し、食用に適さないものを排除するための検査が行われています。学生には普段意識しない「どのような管理で家畜が食肉となり、我々の食事にたどり着いているのか」といった食の裏側に目を向けてもらいます。これにより、食中毒が発生した際に、流通過程のどこに問題があったのか、抜け穴は無かったのかを考える視点を身につけることができます。この視点を患者さんにも応用し、病気の背景にはどのような要因があるかを多角的に考えられる力を身につけてほしいです。実習を通して、学生にこれまでイメージしていなかった異なる医者姿を見つけてもらえれば嬉しく思います。



JR東日本



食品監視センター



宮城県保健環境センター

tmPR

学生広報スタッフ『tmPR』は、学生目線で本学の魅力を発信するボランティアチームです！今年度は医学科4名、薬学科11名、生命薬科学科3名、大学院薬学研究科1名の合計19名で構成されており、イベント班・SNS班・インタビュー班に分かれて幅広く広報活動を行っています！



インタビューにご協力いただき

ありがとうございました！